

1. 研究課題名：

リスク評価技術と制度の連携を通じたリスクガバナンス

2. 研究代表者氏名及び所属：

東海 明宏（国立大学法人大阪大学 大学院工学研究科）



3. 研究実施期間：

平成 27～29 年度

4. 研究の趣旨・概要

化学物質や製品のフローを制御する制度とリスク評価技術の連携を通じて、我が国の環境リスク管理は進んできた。その一方で、ストック（屋内貯留）を対象とした評価は進んでいない。一定期間の寿命を有する化学品・製品は、閉鎖空間内での曝露源であるとともに、災害時には潜在的排出源となる。

これまで、用途地域制で指定された産業・事業所の立地規制と、入り口段階での物質フローを制御する化審法、化管法、そしてエンド・オブ・パイプ段階での発生源対策を主軸とする大気汚染防止法、水質汚濁防止法等は、ハザードを特定してフラックスを制御することを意図しており、必ずしもリスクに基づく評価ではない。

他方、環境負荷全体を見た際のマルチプルリスク対応が求められてきており、そのためには、ストック解析、トレードオフ解析、優先順位付けによる資源配分の最適化といった観点をリスク管理に組み込んでいくことが必要である。

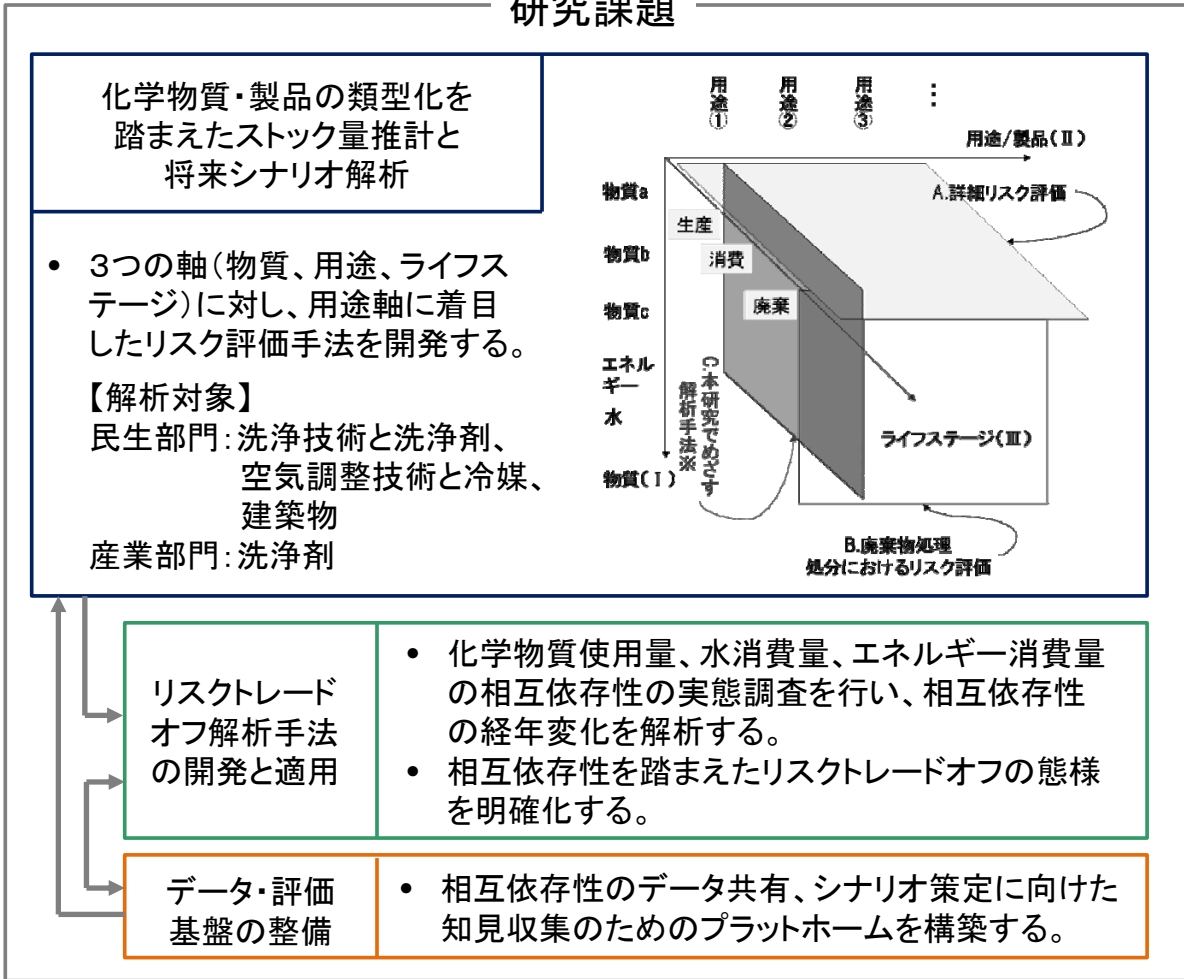
そこで本研究では、ストック管理にもとづくリスク評価手法、化学物質・水・エネルギーの相互依存性を対象としたリスクトレードオフ解析手法を開発し、評価技術と制度の組合せを通じたリスクガバナンスモデルを提示する。

5. 研究項目及び実施体制

- ① 技術と制度の組合せの隘路を補完するリスク評価・管理手法の開発
（国立大学法人大阪大学）

6. 研究のイメージ

研究課題



リスクガバナンスモデル

